

金丸 恭文

同

友会には'99年に入会させていたただいた。私の専門分野であるIT関連の委員会を副委員長としていくつかお手伝いをして、その後、新事業創生委員会の委員長を担当した。起業家の端くれとして私の経験が役立てばという思いで、副委員長や委員の方々と熱い議論をした。ここ2年間は外交安全保障委員会・行政改革委員会の委員長として有識者の先生や副委員長・各委員の皆様のお力を借りて専門外のテーマと格闘した。元々本業を成長させることに必死だったので、同友会入会（いわゆる財界活動）に消極的だった自分を振り返ると、今の自分が不

思議でならない。当時小学生だった長男が大学生になるほどの子供の成長に比べると大人の成長は微々たるものかもしれないが、この8年間で少しは私も成長した気がする。

「人事は請われてなれ」とは尊敬する大先輩にいつも言われた言葉だが、自分の損得を考えてどちらかと言えば厄介と考えていた委員会活動も、優れた異能の副

副代表幹事
政治委員会 委員長
フューチャーアーキテクト
取締役会長



過去と現在と未来

委員長に出会え、交流が広がり、おまけに自分の視野まで広がった。

私の属するIT業界は、その間ずっと激しい競争と新陳代謝を繰り返している。GoogleやYouTubeのような思いがけないサービスの企業が出現した。日本も自信喪失の時代から民間の努力によって経済が復活し、少しかかり自信を取り戻しつつある。日本の復活は本物だろうか。自分で創造した市場や経営改革によるものならともかく、需要増による景気回復も含まれているのではないか。米国やアジアのダイナミズムやEU統合の成果からみると学ぶこともあるのではないかと思う。日本社会が実績に基づき判断する社会のままでは、「過去のないGoogle」は出現しない。もっと可能性や未来も重視する社会に変えていくことが重要であろう。インターネットは組織力の時代から個人力を結合（リンク）する知恵の時代への進化を可能にする。イノベーションの源泉は組織より個人のアイデアや情熱である。日本の復活が真の姿であり続けるためには我々経営者が過去にとらわれない、決断と実行ができる個々人の力をUPさせることが重要であり、そのことが同友会の存在意義ではないだろうか。

Contents

001 ● 巻頭言 金丸恭文	過去と現在と未来
002 ● 特集・新副代表幹事 座談会 1	「新・日本流経営」究明と経営者の責務
009 ● 委員長インタビュー	構造改革進捗レビュー委員会 細谷英二 行政改革委員会 金丸恭文 新事業創造推進委員会 藤木保彦 財政・税制改革委員会 井口武雄
013 ● リレートーク 米澤健一郎	変人のすすめ
014 ● 経済同友会最前線	構造改革進捗レビュー委員会意見書 他
026 ● コペンハーゲン通信	リトアニアの投資環境
027 ● 同友会スケッチ	2007年5月の記録と7月の予定
028 ● 新入会員紹介	2007年5月18日現在の入退会者
030 ● 私の思い出写真館 畠山 襄	5年前、釣魚台国賓館で